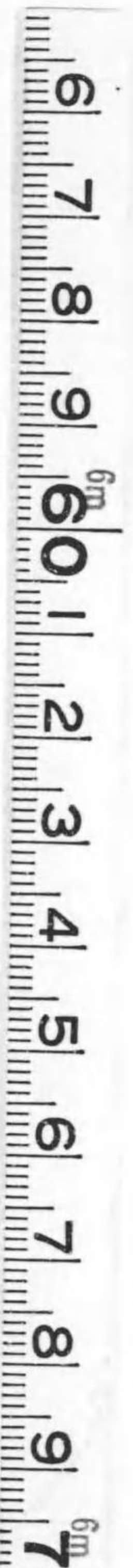


特259

383

羽衣

昭和改訂版
内五



始



羽衣

(梗概) 三保の松原に白龍といふ漁夫あり。或る日松ヶ枝に衣のかこりけるを見、取りて歸らんとせしに、いと稚びたる一人の女現はれそれは天人の羽衣とて容易く人間に與へ難しといふ、白龍いよく喜び、扱ては國の寶もなすべきものなりとて返さざれば、天人は、羽衣なくしては天上へ歸る事かなはずとて、雲の流も雁の渡るをも羨みて唯だ泣き悲しみける。白龍も餘りの痛はしさに、天人の舞を見せ給はる衣を返すべしといひ、天人もせん方なく羽衣を身につけ、天上界の有様を速べて一曲の舞を奏で君が代の限りなかるべきを壽ぎつゝ次第に天に登り富士の彼方の霞の裡に隠れける。



シテ 天人

ワキ 漁夫白龍

ワキツ 漁夫二人

所 駿河國三保松原

季 春

羽衣

^{わき上} 風早乃三穂の浦をまぐ船は浦人は路は

く波路は家は上は是ハ三穂乃は糸は伯

まうと中は漁父はそいは万里はの好山は雲

息はにおまはる里は一樓は乃は的月はよはぬ初はてはなはり

突は長閑は成は時はもはやは喜は此はきはきは糸は糸はの

波立清く船を度月も残りの天れ東
およびたまきわたるも眺めいよなるき
きり水キヤたれめや山路を分て清と深
登りよ二穂のね系に立法きいぎや通
んキヤ風むらぶるの浪波い
も見えくキヤ船せで人も満るいま

てきだーまもいづも長采き朝風の
ねち常盤乃あうそりー波のきるるに
船ちだも船人多た小舟や

^{わき}我二穂のね系よあぐるも四才れと一たを
眺むる処も心をなよた際音樂すへ重

香四方よ葉をいそきたら思ひぬ所よ

たつ雲路まどひて向後あはれも 恒列トナリ

一やよしのうらな雲せうくあはれ一き

き一たう風上か凌頻ゆのなれをきし

歩一あう今更よをうらある唇金のゆり

ゆ天詠とさぶあつうーやヤラバ子鳥鷗の沖

津波ゆくりゆるるま雲風のさよあはれをう

かーやー 解トキよは歌きゆ程ハヤ子夜を

返一ゆさうさるゆいゆ あーうれーや

はくはけ方へ弦りゆへ 誓トキ承及ハヤくる天人

乃舞樂只今愛にて奏一弦り夜成

返一中へー 嬉トキ一を扱ハヤく天上にゆ

ん事をゆるうけほびにいとほしき

人間此等遊の形見此舞月宮をいへしに
舞曲あり只今愛いしく奏しつゝ世を
憂ふ人は傳ふべし去れりて夜をくすむ計ふ
満ちきり神いんをえし給へしやけをを
たしむる舞曲をいへし給へしやけをを
あがり給ふべきしや給へし人習ふ有

天よ傳りておた物を^{わき}あはせしつゝやけ
らばとて夜をえしあはれが物^て乙女ハ
夜をえしつゝ^{ダイシヤク}霞夜羽衣此曲をいへし
天の羽衣風に和し^{わき}ぬふうはるふむ
乃神^{わき}一曲をかきで^上満ちきりや^東
遊び乃發河舞し^ては時や物あはるらん

ク^リ上^ル久^堅の天^とい^ひの^ハ二^神出^世乃^古十^方
世^を定^め一^ふ世^の限^りも^なら^ぬと^て
久^堅此^空と^いふ^名付^り上^ル於^るに^月宮^に
殿^乃有^根玉^を寄^け此^修理^とす^一ち^よ一^て
同^上白^衣黒^衣の^天人^乃数^を三^五よ^りつ^て
一^月教^と此^天乙^女法^事を^定め^役を^お

我^も教^あは^天乙^女 月^の桂^は身^を
を^分く^か里^よあ^つま^乃發^河章^世に
傳^へし^曲と^りや^曲下^曲を^後た^をび^きふ
乃^久堅^の月^は桂^の花^やさ^く実^花
う^つろ^ちめ^くま^乃志^る一^うや^面白^や
あ^めな^くて^愛も^妙あり^天津^風雲^の

通ひち吹とちよひ女の海め志ばーのこ
まりえけね東乃春此色を二種り倚
月清え深ふ士の音しづきやま此暎
まぐひ波とね風ものどかゆる浦のみ振
そ上天地ハ何を為さん玉垣乃内外
乃神の清末まで月も曇るぬ日此や

君り代ハ天の羽衣まれよきてあづと
もそぬいとほそと沙も妙あり阿づま
あおうそて淑と此菊笛吹う管上候
孤雲の卵よちちくして落目のくれな
為いそめいろ乃止をうつしそみどりわ
浪み浮橋のなうふ嵐よ花降る実

香を回しつゝ白雲此神ぞ妙なる侍合

南を由命月天子奉地大勢至同上 東

抱び此舞の曲ワカ上あるひは天津ヤサをそ

ら乃みどりの夜 又春たつ玉殿の衣

色香も妙ありて女乃裳 尤たさは

ゆふさつぐの花をかぎりの天此美事神

あまびくもく入まをも舞乃袖舞乃袖東遊東遊

びの敷くお考き名も月の宮人

三み物中の宮子又満願出如此舞と

ち里清願系海國土成勢七寶元波

乃実をふくし玉子星を能く考子孫ふ

去程よ時移りて天の羽衣浦風よたか

終

